

## 2018年度 第2回 運営委員会 議事録

日時：2018年6月10日（日） PM 1:00～5:00

場所：京都教育文化センター 102号室

出席者：朝日、伊藤、汾陽、片岡、ツツミ、千明、花原、日高、ふじい、三田村、目良  
(あいうえお順)

### 議題

#### 1. 会員の動向

退会希望者：西住恵子 →実行委員は承認し、総会をもって決定とする。

#### 2. オーストラリアお返し展について (別紙参照)

武蔵氏にトーリ・チャーズ氏 オーストラリア版画協会からの返信があり、日程、開催場所、企画担当、選考委員、日本側の参加人数、オーストラリア側の参加作家の人数、展覧会テーマ、作品サイズ、出品数、技法、支持体、出品条件など、詳細な展覧会内容の提示があった。

・オーストラリア側からの提案にはいくつかの問題点があった。

① 日本側の参加作家の人数が約55名（最大60名）との指定があり、京都版画の現会員77名から参加人数の調整をしないといけない。

・最後の展覧会になるので全員参加を希望したい。

→ 作品点数や、サイズを調整することで全員の展示が出来るのではないか。

・またテーマや作品サイズ、制作年など出品規定のハードルが厳しく、現状の規定のままでは参加人数が減ってしまう可能性がある。

→ テーマ設定を外せないか交渉する

② 展覧会費用を日本側で助成金を取るなどして算出することが提案されている。

→ 日本での展覧会はこちらが負担し、お返し展では開催国が負担する決まりではなかったのか？

③ 選考委員が設けられていて、提出した作品が選出され展示される。

→ そもそも何故選出が必要なのか？いつ選出するのか？

・現時点で実行委員でやるべきこと、問題点

① 出品作家の確定を2018年10月にするので、出品希望者への呼びかけを2018年の8月までにしなくてはならない。

→ 出品サイズ、新作（2018,19年制作）であること、非額装、文章とプロフィールを本人で英訳するという条件があり、その他は交渉中であることを書いた文章を7月の総会の出欠確認用の返信ハガキと一緒に送る。

→ 総会の出欠確認用の返信ハガキにお返し展参加の有無を記入する欄を作り、参加者の出欠をとる。

② オーストラリアからの提出物の項目に、作家のプロフィールと作品テーマ「現代、現在」をどう表現しているかを説明する文書との記載があるが、誰が英語に翻訳するのか？

→ 国際展の図録用の英文略歴のフォーマットはあるので、それを基に各自行う。文章も各自英文の提出をする。

3. 2017年度決算報告と2018年度予算案について（花原）（別紙参照）

花原氏より報告があった。

4. 資金計画（案）＜花原氏＞

・減らせる経費の洗い出し

資金計画を出すためにも、京都版画の閉会時期をはっきり決める必要がある。

20年で閉会し京都十景と切り離して運営する案も出たが、23年で京都十景と共に閉会する方向で委員会で話し合ってきた流れがあるので、23年での閉会が妥当。

23年の3月で会を閉めることができれば、22年度で閉会でき経費削減できるという案に落ち着いた。

さらに、総会を20年度以降 年1回以上の開催に変更する。  
そのためには会則を変更する必要がある。  
(東京の版画展の前の7月ごろの開催が良いのではないかという案が出た。)

#### ・JARFO京都画廊活用法

前回の委員会で、小品展は参加者が出品料を負担し開催するという案が出たが、未納トラブルや手間を考えると会が存続している間は、出席者のみパーティー代の徴収をして開催することになった。

JARFOの石田さんからKYOTO版画という名前をなくして欲しくないという意見があり、会の閉会後も『KYOTO版画』という名前を使った展覧会を開催したいとの提案があった。現版画京都展実行委員会ではない新しい会として、京都版画に在籍していた作家による作品展の開催を考えているそう。

### 5. 地域ブロック展について

#### ・DMの発送方法等

他ブロックのDMが1人1枚の発送でいいのかという意見があったが、必要な方のみ事務局にご連絡くださいという文章と共に発送することになった。

### 6. その他

#### ・お礼用小品の残18点の扱いについて（朝日）

⇒ 18点すべてを作家に返却するか、他の有効利用を考える。

(文責：目良、三田村)